

光る未来に全ツツパ。⑧

『崩壊チャンネルと、ミサキの涙』

「……これ、なに？」

動画アップ後、ミサキの声が静かに響いた。

「え？見れば分かるやん。新企画、『タイチひとりて生きていく』シリーズ第一弾」

「さよなら、スロカップル」ってタイトル、なんそれ？」

「バズりそうかって思って……」

「……勝手に決めたん？」

「いや、これはアレやん。演出。ネタ。ドッキリ的な？」

俺の声はどんどん小さくなっていく。ミサキはスマホを見つめたまま、無言だった。

事の発端は数日前。とある動画のコメント欄。

【ミサキ、つまなくなった】

【タイチ一人の方がリアル感ある】

【なんだかんだ男の泥臭さが見たい】

その声を見たとき、俺はこう思った。

——俺、ソロの方がイケてるんじゃないか？

勢いで『ソロ回』を収録した。自撮りで『スマスロゴッドイーターリザレクション』を打ち、負けて、でも語って、カメラ目線でシメて……「人生も喰われてナンボッ

しょ」って言ったら、めっちゃコメント付いた。

【これはこれで味ある】

【クズ度高くて逆に応援したくなる】

正直、うれしかった。

コメントが数字以上に響いた。自分を認めてもらえたような気がして、心がざわついた。

でも——ミサキには、一言も相談してなかった。

その日の夜、ミサキからLINE。

「ちょっと時間ある？」

駅前のファミレス。ミサキはドリンクバーの水しか頼まなかった。

「……怒ってる？」

「怒ってるっていうか、悲しい」

「え……」

「一緒にやってきたつもりやったから」

その言葉に、何も返せなかった。俺がふざけすぎて、気づかないふりをしたたものが、目の前で形になって突きつけられた気がした。

「でも、視聴者がそっちがええんやったら、それでもええよ。もう……邪魔したくないし」

「ちょ、待って！そんなんじゃない——」

「ううん、わかった。続けて。タイチは、ひとりでもできるよ」

ミサキは笑って、店を出た。

追いかけたかったけど、脚が動かなかった。その日の動画は、「重大報告。ミサキがいなくなりました。」というタイトルで投稿された。

内容は、ただひたすらバチンコに負けて帰る俺の姿。

【あれ、地味に切ないな……】

【ミサキ、戻ってきて】

【やっぱり二人でやってほしい】

コメントが、揺れていた。でも、もうミサキは出てこなかった。俺はソロで動画を撮り続けた。

けど——笑えないくらい負けて、誰にもツッコまれないまま編集して、寝落ちして、朝起きて、気づいたら、またホールにいた。

カメラを回しても、誰にも振る相方の顔が浮かばない。

「タイチひとりて生きていく」

そのシリーズは、3本で終わった。

「……やつば、無理やわ」

ある日、久々に連絡を取ったコースケ先輩にそう言った。

「そりゃそうやろ。お前、ボケしかない漫才」やってる状態やで？」

「ミサキ……戻ってくるかな」

「そんなん知らんわ」

「ですよね……」

先輩は缶コーヒーを渡してくれた。

「でもな、男は、ツッコまれんと育たんのや」

「……深えっす」

その夜。動画フォルダを見返してたら、古い映像があった。

「ミサキです。今日の勝負はタイチの勝ち……認めたくないけどね！」

その顔が、俺の中に、残ってた。

画面の中で笑うミサキを、俺は、何も言えずに見つめていた。

「……ミサキ」

ひとりごとのように、名前を呼んだ。

次号に続く……

